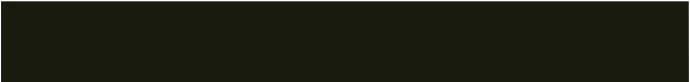




マルチリンガル児の発話発達



日本語

マルチリンガル児の発話発達

発表者：太田光彦

著者

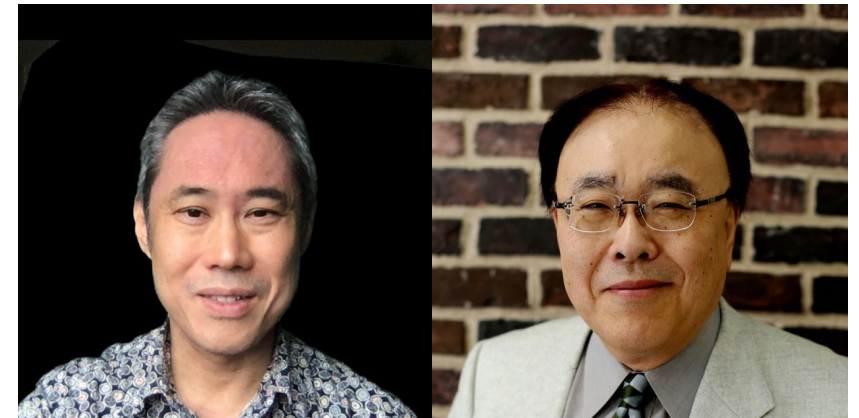
- 太田光彦

エディンバラ大学（英国） mits@ling.ed.ac.uk

- 上田功夫

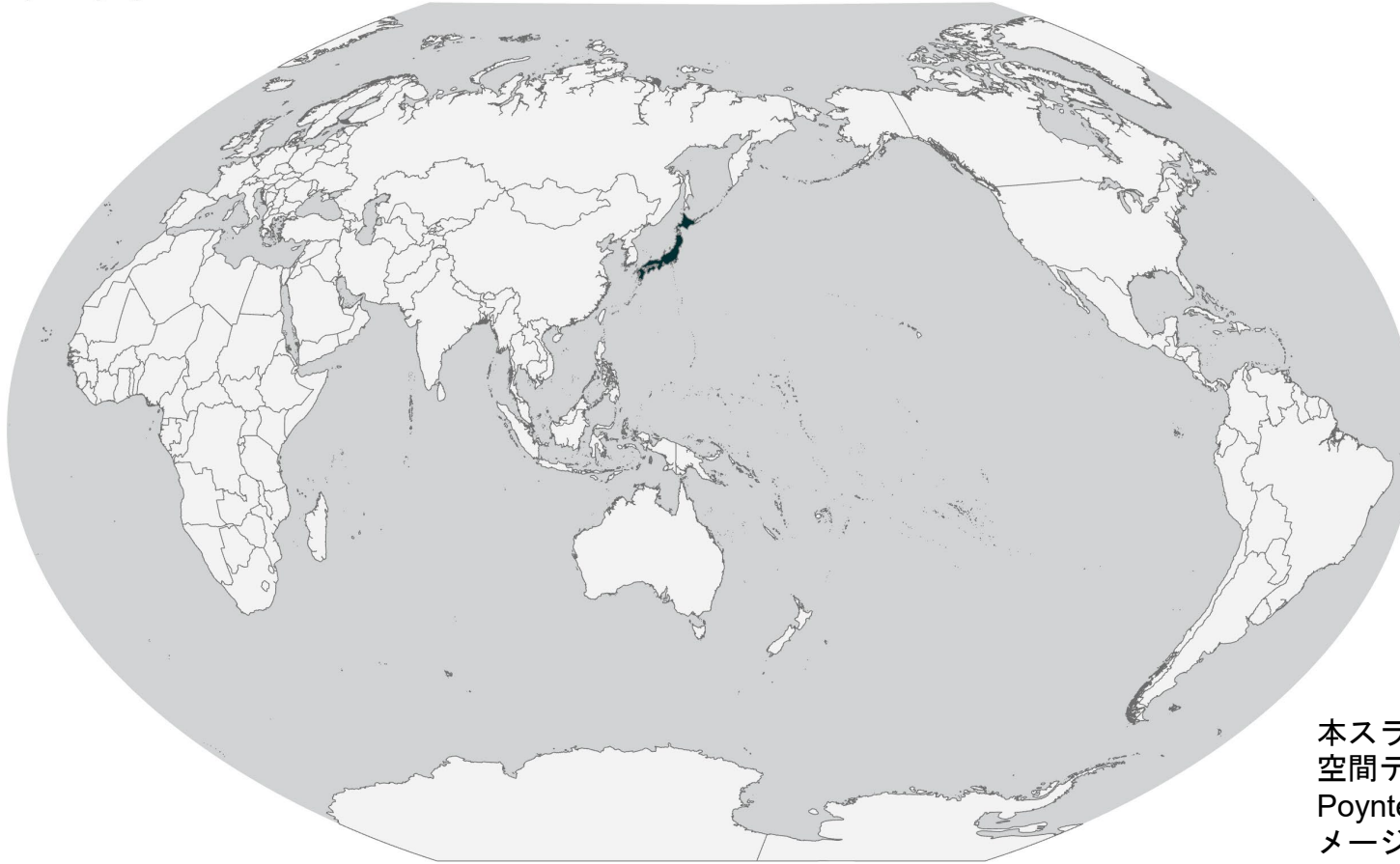
名古屋外国語大学・大阪大学（日本） ueda@nufs.ac.jp

出典: Ota, M., & Ueda, I. (forthcoming). Japanese speech development. In S. McLeod (Ed.). *The Oxford handbook of speech development in languages of the world*. Oxford University Press.



日本語の使用地域

■ Official / major language



本スライドの地図はチャールズ・スタート大学空間データ分析ネットワーク(SPAN)特にCraig Poynter氏の協力で作成されています。地図とイメージの作成はESRI ArcGIS Pro 3.1ソフトおよびESRIのLiving Atlasに含まれるデータが使用されています。

日本語

- 主な使用地域
 - 日本
- 方言
 - 代表的な方言： 関東・関西・東北・琉球
 - 標準語は東京方言に基づいている

日本語

■ 表記

- 横書き（左から右）または縦書き（上から下）
- 3種の文字
 - 漢字（表意文字。主に語幹に使用）
 - 平仮名（表音文字。主に助詞や助動詞など付属語に使用）
 - 片仮名（表音文字。主に外来語に使用）
- 例: 友達とテレビを見た。

縦書きの例

友達とテレビを見た。

日本語 音韻構造

- 子音 (基本音素15 + 異音):
/p, b, t, d, k, g, m, n, r, s, z, h, w, j, ɲ, ɕ, ʃ, tɕ, dʒ, tɕ, ɲ/
- 子音連結(7): /pj, bj, kj, gj, ɕj, mj, rj/
- 母音 (10): /a, i, u, e, o, a:, i:, u:, e:, o:/
- 音素配列制限: $C_{(0-1)}(j)_{(0-1)}V_{(1-2)}C_{(0-1)}$
- プロソディー:
 - 強勢はなし。ピッチ・アクセントがある。
 - いわゆる「モーラ言語」であり、(C)Vのような軽音節は1拍。(C)VC や (C)V: のような重音節は2拍として扱われる。

日本語 獲得年齢

■ 子音

- 獲得の早い音 /t, d, n, ŋ/
- 獲得が中間の音 /b, p, k, g, m, n, ɲ, φ, ɛ, h, j, w/
- 獲得の遅い音 /ç, s, z, r/

■ 子音連結

- 正確度が75%に到達する年齢 /mj, pj, bj/ ~ 3M /kj, gj, çj/ ~ 3歳半 /rj/ ~ 4歳半

■ 母音

- 「アイウエオ」の発音は1歳1ヶ月～2歳3ヶ月。長短母音の区別は1歳4ヶ月～1歳7ヶ月に習得される

■ アクセント

- 簡単な言葉のアクセントは大体3歳までに習得されるが、方言差もある

日本語 構音発達

■ 正確さ

- 4歳半の時点で正確度が一番低い子音は/r/ (73.3%)、 /ʈʂ/ (76.7%)、 /z/ (78.3%)

■ 明瞭度

- 3歳0ヶ月～4歳8ヶ月時点で 聞き手が知り合いでない場合の聞き取り度：
90.2%（語レベル） 89.3%（音節レベル）

■ よくある誤構音パターン

- 破裂音化、口蓋化、破擦音化、非破擦音化、流音化、/h/ や /r/の省略、前方化、後方化、音位転換、子音調和、音節の省略

日本語 構音発達障害

■ 用語

- 語音症
- 構音障害
- 小児発語失効
- 運動障害性構音障害
- 研究の焦点 発現率、評価、構音指導

■ 研究例

- 3歳から5歳3ヶ月までの子音の獲得 (船山ら1989)
- 2歳から6歳までの誤構音の減少 (中村ら2014)

日本語 構音評価

- 新訂版ことばのテストえほん（田口・小川口 1992）
- 構音発達予測検査（長澤ら 1985）
- 構音検査法（日本音声言語医学会 2012）
- **Japanese Phonology Test**
 - （Hara et al., 2012, Ueda & Bernhardt, 2022）

日本語 構音訓練

- 音素やモーラ単位の模倣、位置付け、 ミニマル・ペアの練習、逐次近似
 - 小寺 (1992)、 田口 (1996)
- 伝統的産生訓練
 - Van Riper & Erickson (1996)
- サイクルズ訓練
 - Hodson and Paden (1991)
- 言語学的アプローチ
 - Imamura & Sakamoto (2002); Ueda (2004)

引用情報

関連章

- Ota, M., & Ueda, I. (forthcoming). Japanese speech development. In S. McLeod (Ed.). *The Oxford handbook of speech development in languages of the world*. Oxford University Press.

本発表

- Ota, M., & Ueda, I. (2023). *Japanese: Multilingual children's speech development*. Charles Sturt University, Australia.
<https://www.csu.edu.au/research/multilingual-speech/languages>
 - Sharynne McLeod, Charles Sturt University, Australia
 - Helen L. Blake, University of Technology Sydney, Australia